

# 3月定例会のあらまし

## 本会議初日



3月定例会は、3月9日から3月24日の16日間の会期で開催されました。

初日には、市長より施政方針が述べられました。

また、令和2年度6会計の当初予算をはじめ24議案が提案されました。

12、13日に予定されていた一般質問は11名が通告しておりましたが、新型コロナウイルス感染症予防の観点より、議員賛成多数で中止の判断をしました。

16日の議案質疑には5人が質疑し、その後、令和元年度弥富市土地取得特別会計補正予算（第1号）が追加提案され、可決されました。また、令和元年度弥富市一般会計補正予算（第7号）が追加提案され、これらの議案を行財政委員会に付託、審査し、25議案全てを原案どおり可決しました。

最終日には、副市長の選任についてが追加提案され、同意しました。

なお、行財政委員会に付託された審査内容については、委員会レポートをご覧ください。

## 議案質疑



### 令和2年度一般会計予算

**問** 普通交付税1億5千万円の積算根拠は。

**答** 財源不足額を1億8800万円と見込み積算した。

**問** 臨時財政対策債が大きく減額計上されているが積算根拠は。

**答** 令和元年度臨時財政対策債の決算見込み額が減少しているため。

**問** 歴史民俗資料館の移転では、まちづくり関連団体などと検討する場を作るべきでは。

**答** 市民ワークショップの意見を取り入れ、市民交流スペースを設けるとともに、観光情報の発信も強化。

**問** 公共施設の長寿命化の試金石になると思うが。

**答** 関係部課で図書館棟全体の計画も検討していく。

**問** 撮影予定の航空写真による地図情報を防災や維持管理に有効活用を。

**答** 活用事例はあるが、さらに防災に活用するような検討や連携、事前協議をしていく。

**問** 市観光協会の事業の狙いと体制は。

**答** 観光案内、情報発信、地場産業のPR。観光協会の独立を視野に入れ、歴史民俗資料館との連携も含め研究。

**問** 行財政アドバイザー制度を導入したが、令和2年度の実施内容と開催回数。

**答** 「行財政に関する取り組み」2回。「事務事業の見直しに関する取り組み」2回。「若手職員の育成に関する取り組み」7回。

**問** 期待する効果は。

**答** 市長や職員が重要な政策判断などを行う際に、専門的な立場から個別に助言などを行う。持続可能な行政運営に期待。

### 訴えの提起について (経緯など詳細は次ページ)

### 弥富市国民健康保険税 条例の一部改正について

**問** 調停不成立の理由は。使用料相当額及び擁壁を撤去するよう求めたが、相手方より水路敷地の買い取り申し出があった。

**問** 資産割が減って均等割が増えるが、どのような人が増額か。

**答** いままでに原状回復を求めていくのか。

**答** 70歳夫婦年金300万円で固定資産税10万円の世帯は、1000円の増。

**問** 令和3年10月3日。いつ訴訟を行うか。

**答** 40歳夫婦子ども2人の4人世帯で、給与収入500万円で固定資産税10万円の世帯は、2万1700円増。

**問** 訴状の受理および議案第7号の議決後には速やかに反訴の手続きを進める。

**問** どのような理由で調整を行うのか。

**答** 議会が始まる前の2月に主要紙が記事にしているが、あいまいな状態のまま市は発表したのか。

**答** 県が保険料統一に踏み切る前に、令和2年度から6年度までに緩やかに税率を近づけていきたい。

**問** 市から積極的に発表したことはない。12月の一般質問の結果、住民監査請求の結果を基に取材者から確認され、回答した。

**問** 議員として説明責任があるので、調査委員会を設置しては。